

並墓談話無變云々、依之顯定逝去之刻、禪閣墓所我久傍、掘埋顯定云、仍于今雨夜深更ナドニハ物語シテ被笑之聲、人多聞之云々、

〔備前老人物語〕中西彌五作と古田彌三は、ならびなき友也しが、玄づが嶽の戰の時、わたしあひ彌五作鍵にて彌三をつきふせて、甲を引あげすでに首をとらんとしけるが、よくみれば彌總なり、あやしやおもひて、おしくつるげて、汝は古田彌總なといひければ、彌總下より、かくいふは中西彌五作と覺へたりか、る時に臨て、いはれざる名乗なり、はやく首とれといふ、何條さる事あるべきとて、とつて引起し、鎧の塵うちはらひ、不思議の仕合かなとて、打笑て立わかれしと也、彌五作は、秀吉公の御方、彌總は柴田殿の方にありし也、その、ち大和中納言殿につかへ、終には古田兵部少輔殿の家老となり、古田總左衛門といひしは、かの彌總が事也、

〔閑際清談〕下伴氏頗寡欲之名アリ、與尾山氏友善、尾山氏吝嗇ニ過、或人伴氏ニ問テ曰、吾子與尾山氏趣向不同、何其相善ヤ、伴氏云、尾山ハ才藝皆我ニ愈、惟吝於財、故ニ我十餘年來、不使渠爲我費一錢、所以相善ナリ、孔子將行雨フリテ無蓋、門人ノ曰、商也有之、孔子其蓋ヲ不假曰、商ガ爲人也、甚財ヲ怵、吾聞與人交ニ、其長者ヲ推、其短者ニ違、故ニ能久也、伴氏ガ言暗ニ此ト合リ、

〔先哲叢談〕五、三宅重固、中略號尙齋、

尙齋固守、朱說深疾、異己者、而與三宅石菴、三輪執齋、玉木葦齋、相友者、唯其舊交、不忍絶云、石菴信陸象山、執齋喜王陽明、葦齋奉神道、石菴執齋爲其所論刺、尙且每稱尙齋爲温厚長者、

〔先哲叢談〕五、源君美、中略號白石、

嘗謂鶴樓曰、南郭先生、名譽甚噪、余欲往一見者、有年、然一旦被簡、任居內班、則不得私造處士許、彼亦既爲名家、不可引致、以故至今不果、豈不遺恨乎、鶴樓曰、是何難之有、予請爲紹介、明日見之於先生、乃過南郭、語以此言、南郭喜、卽與鶴樓共來、白石倒屣迎入、遂定交、